

平成27年度糖尿病対策成果発表会

団体取組

糖尿病看護ケア研究会

取り組んだ課題

“広く糖尿病教育ができる人材育成と仕組みづくり”

報告者

糖尿病看護ケア研究会代表

稲垣美智子(金沢大学)

補助事業を受けての展開(25～27年度)

プログラムのコンセプト

重症化予防研修受講生約631人

1
石川県のどの地域においても、
糖尿病腎症予防に詳しい看護師の
いる環境を創る

・能登地区、加賀
地区で同時開催
する研修会

25年度

2

自分の地域で
自分達の力で、
持続可能な研修環
境の進展を図る

リーダ研修受講正約126人

・研究会メンバー
の全員参加による
講義の継続
・講義のできる人
材育成

26年度

3

糖尿病腎症看
護の標準プロ
グラム・知識を
普及する

1と合体して
継続

27人

4

1)セルフヘルプグ
ループ・患者会と連
携活用等、新たな糖
尿病療養の構築

2)医師不足状況で
も、糖尿病教育を構
想できる人材の育成

・患者会およびそ
の支援方法に関
するプログラムの
検討
・模擬糖尿病教室

27年度

27年度事業の概要

プログラム:重症化予防のためのチーム医療に貢献する人材育成

- ・セルフヘルプグループ・患者会と連携した糖尿病療養を構築する
- ・糖尿病教育を構想できる人材の育成

主な内容 (研修会実施回数6回:補助事業単独2回、母体となっている研究会合同4回)
6/13, 8/1, 12/13, 12/20, 1/21, 1/24

1、糖尿病腎症悪化予防のできるチーム医療に関する研修会開催

能登および加賀地区開催

1回ずつ、講義と事例検討

2、糖尿病教室を開催できる人材育成(糖尿病専門医のいない病院でも糖尿病の知識普及ができる方法を模索できる人材の育成を目指す目的)

能登地区、加賀地区をWebでつないで同時開催回開催

3、糖尿病療養指導技術向上の目的とする研修会開催

当事者理解のための研修、療養支援の基本“傾聴”の見直し

4、患者会の理解と患者会活動の理解

石川県糖尿病協会と連携し、患者会活動のまとめを支援することにより理解を深める

27年度の研修会方法の特徴

講義と事例展開及びワークを組み合わせ実践力向上を図る

各内容のテーマ例

1、糖尿病腎症悪化予防に関する研修会(能登地区と加賀地区で)開催

- 1) 糖尿病療養支援: **事例検討の進め方**(講義)
糖尿病透析予防支援における**チーム作り**(事例検討およびワーク)
- 2) 透析予防支援: **チーム医療を成功させるために**(講義)
糖尿病性腎症の進行を予防する**看護専門外来**の発足(事例検討およびワーク)

2、糖尿病教室を開催できる人材育成(糖尿病専門医のいない病院でも糖尿病知識普及ができる方法を模索できる人材の育成を目指す目的)

“**目からうろこ糖尿病教室**”

3、糖尿病療養指導技術向上の目的とする研修会開催

- 1) **からだMap**による療養指導(珠洲総合病院)
病院から在宅からつなげた事例(事例検討: 輪島病院)
- 2) “傾聴”の第一人者・池見陽先生から**“誤った傾聴をしていないか?”**
- 3) ビアカウンセリングに向けた研修: **1型患者で木村医師からの豊かな経験とメッセージ**。聞いたかったDMにかかる**医療費**

4、患者会の理解と患者会活動の理解

- 1) 石川県糖尿病協会と連携し、患者会活動のまとめを支援することにより理解を深める
- 2) “**患者の力を借りる**”チーム医療: **パネルディスカッション**

腎症予防：能登地区、加賀地区2回づつ

〈第40回糖尿病看護ケア研究会〉

12月13日(土) 小松市民病院にて
『糖尿病透析予防-事例検討の進め方』



〈第42回糖尿病看護ケア研究会〉

1月24日(日) 公立能登総合病院で開催
『糖尿病透析予防支援』



講義と事例検討で

6月13日(土)
金沢大学医薬保健学域保健学類講義室
『からだMapの作成による事例検討』



当事者理解の研修

金沢大学医薬保健学域保健学類 『糖尿病ピアカウンセリングに向けた研修会』



1型DM医師：体験、DM医療・チーム医療

療養支援技術の向上:基本“傾聴”の見直し

6月13日(土)

金沢大学医薬保健学域保健学類講義室
『相互作用から糖尿病療養指導を考える』

事例で考えてみましょう

“傾聴”。あなたの理解は正しい?



能登地区、加賀地区をWebでつないで同時開催回開催

12月20日(日)『**糖尿病教室ができる**人材育成のための研修会』

加賀地区(小松市民病院) 能登地区(公立能登総合病院)で開催。

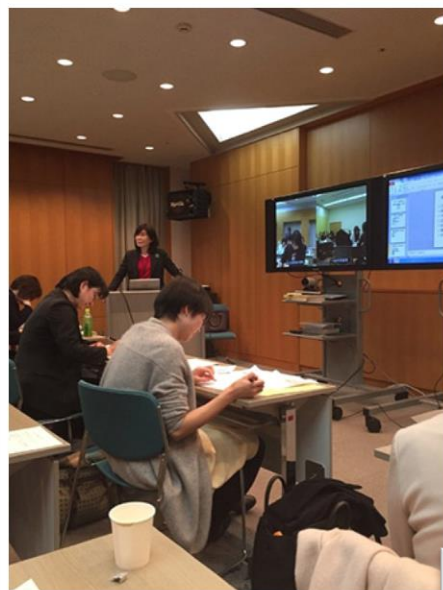
午前;

『**目からうろこの**

糖尿病初期教育の糖尿病教室』

午後;

『糖尿病療養長期継続の方の
自己効力が上がる糖尿病教室』



成果の概要

1、参加者数

1) 糖尿病腎症悪化予防のできるチーム医療に関する研修会開催

48人

2) 糖尿病教室を開催できる人材育成

48人

3) 糖尿病療養指導技術向上の目的とする研修会開催

152人

4) 患者会の理解と患者会活動の理解

- ・石川県の全ての患者会活動の紹介冊子の編集および冊子の完成
- ・研修会:25人

医療者の参加:275人

石川県糖尿病協会、患者会

2、波及効果

1) **糖尿病性腎症の進行を予防する看護専門外来の発足**(羽咋病院等)

2) 糖尿病療養指導更新単位の取得

3) 糖尿病協会との連携

受講者は重複参加有

本プログラム継続の必要性と今後の計画

石川県における貢献

能登北部・中部および加賀地区において専門医の不足、地理的及び人材的な原因によるメディカルスタッフ研修機会の困難さを補足することへの貢献



- ・糖尿病看護外来など独自の対策がとられ始めた
- ・広く糖尿病教育を実施できる仕組みづくりへの動機づけができた

常勤の専門医が不足する地域での具体的な展開例を提示することへの貢献



- ・全国でも具体的展開はほとんど提示されていない。
- ・メディカルスタッフとしての専門性の発揮を探究

継続の必要性：明らかに動機づけがされているため、
具体への展開を支援することが必要

今後の計画：ケアの評価ができる、イノベーティブ思考のできる人材の育成